

勝林寺夕報

清淨光明ならひなし
遇斯光のゆえなれば
一切の業繫ものぞ
畢竟依を帰命せよ

けられ「法身のさとり残るところなく~~きわまり~~きわまりたまいたりといふところなり」と左訓がつけられています。ということは真実のおさとりを究めつくりした如来さまは私たちのいのちの終局的なよりどころであるという意味です。

以上のような理解をもとにザツと現代語に訳してみますと

真実清浄、きよくすみわたつたこの如来のおひかりは

他にならぶものなく

しかもいかなるものをも そのしづかな清らかな光につつんでくださいます。

いま たまたま ようやつと
この如来の光に出会えたとき

そのときたちどころに

たとえどんな罪業のなかにあるものも
その苦悩のこりなくのぞかれて

如来の清浄な光のなかに

このご和讃は、他の一切の仙様の光に對してからることなき光の如来であること。またこの阿弥陀如來の光には何のものも敵対するものなしという光の如來阿彌陀さまのお徳をたたえたものです。

そこを終のよりどころとして、
生れかわらせていただくのです。
その終のよりどころとなつてくださる
光の如来南無阿弥陀仏に帰命しましよう。
実は私、昨晩、仲秋の名月の夜でありました
あのすばらしい鎌ぞかな月影をあおぎながら
奇しくもこのご和讃を思い出ておりました。
そしてまた親鸞さまが「教行信証」のなかで
「わが身」のうえに仰いでおられる「月愛三昧
ということを思い出しておりました。
来月に書かせていただきます。

紘太くん「初参式」おめでとう

上小田岩上定幸氏の長子（三喜夫・加代子氏初孫）「岩上紘太くん」の「初参式」をまし
二十七日勝林寺本堂で厳しくにおこない
ました。お念佛のながですこやかに育たれ
ますようお祝い申します。

家柄・身分・血すじ

勢を張つてみるものです
また・周囲からけおとされそな危険にさら
されると、やはり架空な神さまなんか持ち出
て「おれのうちはこれこれの神さま以来、この
國の王たるべき家柄血すじだつたんだぞ」と居
る所へ向ひます。

このように「家柄」「血筋」などというものは、いわば「負け犬の遠ぼえ」としてつくり出されたものなのです。

負け犬が、「おれのうちは高い身分だつた
だ。尊い家柄だつたんだ」とからいはりする
は勝手です。勝手ですがしかし困ることがあり

葬儀

九月二十五日
太田坪木岩野様

ます。
だれかのことばに、
「貴族あれば賤族あり」と

二日 同
十八・九日 伝道院地方数学研究会（京都）

二十三日 同 同
二十五日 みのりを聞へる

〔別報恩講〕
二十八日
善光寺御恩講・長寧寺御恩講・教区化進度協議会
（西日本新聞社）

七日 企画室議（神戸）

内二

お念仏のなかで今年もおでいい致しま
しよう。

彦報

別のところを知らせてしまふ。

A detailed botanical illustration of a flower, likely a chrysanthemum, showing numerous stamens radiating from a central disc. The petals are dark, and the stamens are light-colored.

十一月の二よみ	教区企画室会議(神戸)
二日	きんきプロツク仏教婦人会大会(神戸)
三日	仏社役員会
五日	五百会お講・住職会
六日	坂本滋氏宅法事・兼井誠正氏宅法事
九日	前田桂月・斎藤照義氏宅百ヶ日
十五日	十六夜会
十一日	神戸応聲寺永代経讀師
十二日	同
十八・九日	伝道院地方教學研究会(京都)
二十日	稻木範彦氏宅法事
十一日	草津順光寺歓恩講講師
十二日	同
十三日	同
十五日	みのりを聞く会
十六日	本覺寺報政講
十七日	同・湯口昇司氏宅法事・善立寺歓恩講
十八日	「別修密懇」
十九日	善立寺歓恩講・長寧寺歓恩講・教区教化推進協議会
三十日	長寧寺歓恩講・古田耕三氏宅法事・西平寺歓恩講
十一日	西宗寺歓講・真覚寺歓恩講
七日	姫路「はらす会」講師
四・五日	企画策定会(神戸)
	基督教第二専門部会

私のお念仏

宮嶋千秋



お葬式にもいろいろとやりかたがあるようですが、お寺さんが葬式をしてくださるのは一体なぜなのだろうかと思つております。お寺はもともと生きている私への教育の殿堂であり、いまもそうであると考へております。それが、わが宗教の根本原則ひとつに、自分のいのちの無常のなかに真実を見るということがあると思うのです。

いま死ということは「無常」そのものであります。これが私自身の宗教を考える原則的なきつかけになるところから、葬式を特別にしてくださるのではないかと思つております。

あの元気な人がなくなつたというまぎれもない「無常」をまたのあたりにして、私のいのちへの教訓を与えてくださるのが葬式ではないかと思います。

いずれにしても「無常」という現実をもとにして、いまの私にいのちの「有難さ」を教えてください。それが葬式だと私はいたゞかせてもらいます。

そのことから思うと、子どもが生れるときに、は、これはいのちの出発であるわけですから、それにふさわしい儀式もあつてもよいのに思つたりもしますがどうでしょうか。

私が生れたということは、すなわち「無常」の世界にそれだけかけがえのないのちをいただいて、しかも小さいもうい私であつたのに、その私にあれもこれも何も彼もいろいろなものを与えていたゞいて、はやく大きくなれとの思いをこめて育てていたいたいように思います。いま思ひますと、阿弥陀様が「弥陀成仏」と真実の私の親となつて、私のために自分のいのちをかけてはたらいてくださつたのだと思ひます。しかし、その阿弥陀様のお姿を見ることので

きない人たちも沢山おられることを見のがすことできません。

不思議さ 有難さ 宿縁



本堂格天井特別寄付
収納率 一三五パーセント

この世のなかでは、阿弥陀様のお慈悲をまうけにできずに空しく若くこの世を去つていく人が数えきれないほどおられるよう思います。お念仏様に会うために人として生れ出てきたのに、自分のいのちの生きがいを空しく無駄にしてしまうだけではありません。死ぬべきいのちを、ふるいにかけられながらまだ生かされつゝけている私なのに、ずいぶんといろいろな生物のいのちを奪つてきます。また、ここらのなかでは人のいのちさえ奪つてきました。ねたみ・うらみ・かぞえきれない欲・怒りをもつて人をくるしめ、悪口雑言の数々。ひろいあげると數えきれない悪業をつみ重ねながら生かされてしまう私なのに。今のこの自分をもつたいないかぎりだと思つております。

私のいのちには真実のかけらもありません。ただ阿弥陀様の真実のお慈悲につゝまれて生かれている私であるだけなのです。真実は、あまりにも大きすぎて形としては見ることはできないだと思つております。

自分のしていことを若い人たちはどのようにうけとめていてくれるのでしょうか。

まだ若い、まだ死なないと、無常であるにもかゝわらず、若さと我とをありかざして、それをそのままつぶんでくださる広大なお慈悲に気づかずにいるのではないでしょうか。

なんとしてもお寺におまいりして、お聴聞をしていただきたいと思うこのころであります。

夫として、妻として長い年月苦労を共にしてきました。ほんとにこの人と今日まで共にくらせて何と不思議なことであつたなあと、あらためて不思議のなかに互にあいまええたときに、そのときにほんとの夫婦になつたのではないでしょうか。

親である間違いない、そうであるにもかゝわらず、「この子まぎれもなく私の子である。そうであるにもか

わらず、「この子いつたいどこから来たのだろう、有難い不思議など様であつたな」と、あらためて親と子が「有難さ」のなかに出会えたとき、そのときははじめてほんとの親と子がうまれるのではないでしょうか。

この私のこの浅間さ、とても今生この世だけのものではない。私自身にも知れない遠い遠い前生の、煩惱流転のなかで積み重ね身にまとつた、どうしてみようもない罪業の身。

その流転の凡夫・地獄必定の私に、十劫という遠い遠い昔「なんとしても救わねばわたしもはとけにならない」と、南無阿彌陀仏と名のり出て、私の相になつてくださつてから今今まで、こうはたらきかけ、ああ・かかわり、こう願い、あよんでも…。

そうです、いまこの私、なみなみならぬ遠いご縁宿縁のなかにはぐくみ育てられていた私であつたと、お念仏のなかで、もつたない私が発見できたとき、はじめてわたしはわたしになれたのではないでしょうか。

きんきプロツク仏教婦人会大会
勝林寺十九名参加

十月二日、神戸ホールアーバンのワールド記念ホールへ、さんき六教区から六千五百人の会員が集つて行なわれる「さんきプロツク始動大会」に出石組から九十六名(内勝林寺十九名)

が早朝六時半二台のバスで出発参加する。大会では元僧大教授原一男先生の講演をきく。住職はこの大会運営に当たることになつてゐる。

仏婦 本堂の大幕を新調

格天井の新妻も成った本堂に、いつも大幕も新らしくしようとのほど勝林寺仏教婦人会のきりで七間の大幕が新調され、秋の彼岸会にはじめて張られた。こうからお礼を申します。

ビタミンCの宝庫
ジャガイモもち

「遇(たまたま) 行信を渡は遠く宿縁を度こべ」(「慈行信証」総序)。

あらためて「不思議さ」のなかにまみえてほんとの夫婦になつた。

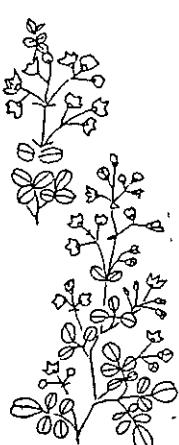
あらためて「有難さ」のなかにまみえてほんとの親と子とがうまれた、「遠い宿縁」のなかにまみます。



材料 四人分
ジャガイモ百五十g 上新粉百二十五g かたくり粉二十五g
砂糖二十g 湯百ミリリットル
きな粉(黒ゴマ)二十gに砂糖十g

私であつた

もつたない



おさめとり からめとられし
ほんのうに
身うごきならぬ
身のあたたかな

